

【ニュースから】

○避難所への医薬品供給、自衛隊ヘリの要請も- 細川厚労相

( 2011 年 03 月 18 日 13:55 キャリアブレイン )

細川律夫厚生労働相は3月18日の閣議後の記者会見で、東日本大震災の被災地の各避難所へ医薬品などの物資を届けるために、ヘリコプターを出動させるなど自衛隊への協力要請を検討していることを明らかにした。

細川厚労相は会見で、「医薬品は現地の集積所までは届くようになったが、そこから先はガソリンの不足などで届いていない」と述べ、各避難所へ物資を運ぶため自衛隊にヘリの出動を要請できないか関係省庁と協議していく考えを示した。

この後に記者会見した小宮山洋子副大臣も、「医薬品の管理が分かっている卸の担当者が安全に地上で届けるのが通常（のルート）だが、非常事態なので自衛隊のヘリコプターなども使っていないのか、検討している」と述べた。

○日医が被災地に医療用薬を空輸- 20日には現地に

( 2011 年 03 月 19 日 15:35 キャリアブレイン )

日本医師会災害対策本部は3月19日、東日本大震災の被災者に向けて医療用医薬品を発送した。空路で宮城空港（仙台市）、花巻空港（岩手県花巻市）に運ばれ、20日中に被災地に届けられる見通し。

日医が日本製薬工業協会（製薬協）を通じて、被災地域の医師会から要請があった医療用医薬品のメーカーに寄付を求めて実現した。

19日午前には各メーカーの医薬品を積んだトラックが続々と日医会館（東京都文京区）前に到着。同会館内で日医職員や学生ボランティアらによって宮城行き、岩手行きに仕分けされ、輸送トラック3台（4トン1台、2トン2台）に詰め込まれた。トラックは正午にパトカーに先導されて米軍横田基地に向けて出発した。

日医の原中勝征会長の説明によると、米軍機によって仙台空港、その後花巻空港に空輸された後、各県医師会を経て市郡医師会から被災地に届けられる。

製薬協によると、日医から要請があったのは18日だった。製薬協の伍藤忠春理事長は「いつ要請があってもおかしくない状況だったので、会員各社で綿密に擦り合わせを行っていたため、間に合った。全力で対応した」と語った。

日医会館には足立信也参院議員も駆け付けた。足立議員は「今回は製薬業界、卸業界、日本医師会、学生ボランティアの連携による自発的な活動であり、安全に届けられるように警察、自衛隊を動員して手助けする。早く政府の指揮命令系統を構築できるように努力する」と述べた。

○医薬品の緊急運搬車、「薬マーク」表示を- 厚労省

( 2011 年 03 月 20 日 22:30 キャリアブレイン )

医薬品を運搬する緊急車両への給油量の制限撤廃について、厚生労働省は3月20日、車両の

窓ガラス全面に同省が定めるマークを表示するよう、日本製薬団体連合会と日本医薬品卸業連合会に事務連絡を行った。

これに関連して厚労省は19日、警察から緊急車両の標章を受け、社員証や積載荷物などから医薬品を運搬していることが確認できる車両については、同省の事務連絡を提示することで給油量の制限を受けないとする事務連絡を出している。

今回の事務連絡では、警察から緊急車両の標章を受けた上で、同省が作成したマークをA4判サイズに拡大するなど、車外から分かるような形で示すよう求めている。

#### 【政府の資料】

○第2回各党・政府震災対策合同会議（3月18日）資料（添付）

政府の指揮系統図、第1回会議における提言への対応などが掲載されています。

#### 【患者会の対応など】

○フェニルケトン尿症（PKU）親の会協議会の報告（塚田さん）

このたびの東日本大震災に際して、フェニルケトン尿症（PKU）親の会協議会の対応と現状について、その概要を報告いたします。

1 初動対応・・・3月12日に関東在住の役員・スタッフを中心に「対策委員会」を立ち上げ、情報共有とともに情報発信・提供の一元化に努めつつ、まず東北6県と茨城県在住の会員31家族の安否確認に取り組みました。

2 安否確認・・・電話連絡を入れることを主に、ホームページによる呼びかけ、ツイッターなども利用しました。

電話は最初ほとんどが「不通」でしたが、連絡のついた会員の協力も得て3月19日現在、29家族の安全が確認されました。しかし未だ宮城県の2家族、岩手県の1家族、計3家族の安否確認が取れていません。

3 医薬品の確保・・・医薬品である治療用特殊ミルクの提供について特段の配慮・対応をメーカーや医療機関にお願いしました。

主治医や学会などのご理解、ご厚意や厚労省の一連の通達もあって、できるだけ対応をとっていただける旨の連絡を比較的早い段階から確認できました。

4 治療用食品・・・着の身着のまま避難し、特殊ミルクや治療用食品も何もない方や手持ちが僅少で不安を覚えている方に対しては、手持ちに余裕のある会員がまわすこと、会として一括購入し届けることを実施しています。

5 情報提供・・・「厚労省通達一覧」や「診療中の医療機関」などJPAから提供いただいた情報は大いに活用させていただきました。また、それらの中から関係が深い情報をピックアップし、“震災情報サイト一覧”にまとめてホームページに掲載し、メールで配信するなどしています。迅速な情報提供、ありがとうございました。

6 支援・激励・・・19日にある先生から、「米国から先天性代謝異常症の専門医師が、希少疾患の薬不足や医師不足を心配し日本に応援に行きたいと申し出てくれている。どのようなかたちで好意をうけられるか、日本先天代謝異常学会に検討を要請した」旨の情報も届きました。

その末尾に、We are not alone! とありました。

この他にも早い段階から医師などそれぞれの立場の方から「お役に立てることがあれば・・・」との申し出をいただいたことは 私たちの精神的支えになりました。

7 被災された家族への支援の道筋はどうか見えてきましたが、個々の問題では自分たちの力だけではどうしようもない現実があります。

しかし、「私たちは微力だが、無力ではない」の言葉を胸に、今後も力と知恵を合わせて「いま、自分たちにできること」に取り組んでいきます。また、共通する問題、課題などについてはJPAをはじめ、他の患者会などと協働していきたいと考えています。

【地震情報サイト】

首相官邸地震対策ホームページ

<http://www.kantei.go.jp/saigai/index.html>

厚生労働省地震関連情報

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000014ih5.html>

被災地支援に関する各都道府県ホームページ

<http://www.kantei.go.jp/jp/kikikanri/jisin/20110311miyagi/sien.html>

\*-----\*

◎緊急な場合の連絡は水谷の携帯（090-8501-4281）までお願いします。

なお、メールは随時チェックしています。

JPAホームページ <http://www.nanbyo.jp/>

震災情報ブログページ <http://blog.goo.ne.jp/jpa2011>

（こちらに声をお寄せください）

日本難病・疾病団体協議会事務局長 水谷幸司

略称JPA (Japan Patients Association)

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28

飯田橋ハイタウン 610 号

電話 03-6280-7734 FAX 03-6280-7735

<http://www.nanbyo.jp/> [jpa@ia2.itkeeper.ne.jp](mailto:jpa@ia2.itkeeper.ne.jp)

\*-----\*